



発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 失敗学会設立の経緯
- 2-私の提言「グローバル化と国際化の狭間」
- 2-ルポルタージュ 第282回事業所見学会ルポ
- 3-第287回事業所見学会ルポ / 4月入会者紹介 / 行事申込先
- 4-領布のお知らせ / 行事案内

## 「失敗学会設立の経緯」

特定非営利活動法人 失敗学会 副会長 飯野 謙次

2002年5月21日夕方5時、神田駿河台の10m四方程の小さな会議室に、畑村・中尾研(現中尾・濱口研)の卒業生15名が集まった。失敗学会発起人の面々である。

「異議なし。」

次々に読み上げられていく書類が全会一致で承認されていく。東京都、特定非営利活動法人『失敗学会』の設立のため、あらかじめ周到に用意された文面である。しかし、当然質問は出るし、学会役員候補は即座に納得いく答えを出さねばならない。会議が終了した午後7時には神田の街はしっかりとした闇に包まれており、角の赤提灯が我等をいざなっていた。

この起こりは2000年11月に講談社より出版された『失敗学のすすめ』。この本があれよあれよと言う間に売れ行きをのばし、ベストセラーの棚にも並べられるようになった。著者の畑村洋太郎氏(失敗学会会長)が全国津々浦々、いろんな行事に引っ張り出され講演をするようになった。講演を聴いて感動した人々が、「何らかの形で自分の中で生まれてきたこの新しい考え方を持続させたい」と思ったとき、どこにも行きようがなく、畑村会長に相談するようになった。何とかしなきゃと思ったとき、それが世のニーズに合っていたら、不思議な力が作用して何とかなって世が動く。

「NPOにするのがいいと思うんだけど、

自分は大忙しでその時間がないし、誰かそれを担ってくれる人いないかなあ。」

それを聞いたのが、私、飯野謙次。『裏図面ソフト\*』の開発を終え、読者の何人かがそうであったように『失敗学のすすめ』を読んで感銘を受け、英訳本の作成に取り掛かっていた。当時は、会社員を辞めて米国で起業してから1年ほど過ぎており、よく考えると無謀とも思えるが、自分の目指す方向にも合っていた。

「僕がやりましょう。」

と手を挙げ、NPO設立の勉強から始めた。そこから書類を揃えながら発起人を募集、準備万端で昨年5月の第1回総会にこぎつけた。特定非営利活動法人失敗学会として東京都に正式登録されたのが、同年11月27日である。第1回大会を12月9日に決め、準備や案内状も配布していたので、滑り込みセーフ。やはり不思議な力がここでも動いた。

NPO準備会として活動しているところから会員公募はしており、大会当時は個人会員300人、法人会員10団体となっていた。来るもの拒まずの方針を貫いており、誰でも入会・退会は自由。現在は個人400人、法人34社と日に日に会員が増えていく。会費を極力低く抑えるため、運営はインターネットを中心に行うことにした。会員数が増加しても大丈夫なように、エクセルではなく、最初から少し無理してデータベースアプリを開発したのが功を奏している。



「失敗学」という言葉は今や、巷のいろんな場面で見やりにするようになった。世の人々がようや

く、武家社会の歪んだ体面偏重主義では社会的発展は望めず、江戸時代のように停留してしまうことに気が付き始めた。閉じた社会ではそれもいいかもしれないが、19世紀後半、世界の近代社会に対して目を開き、途中、侵略戦争という間違いを犯しながらも、とにかく追いつけ、追い越せと遮二無二がんばり、いったんはトップに立ったこともある。与えられた仕組みの中で改善を続け、ベストの物を生み出すのは得意だが、より優れた新しい仕組みを作り出すのが苦手な日本。体面を重視するあまり、過去の失敗をうまく生かしていないのもその一つの要因であろう。失敗学は、もともと創造性開発を目指す中で生まれた一つの過程。大きな目標を見失わないよう、学会員全員で鋭意努力していきたい。

\*裏図面ソフト:畑村教授、中尾教授主導で2001年に開発された試験的ソフト。設計者が決定をするときに、決定の背景や思ったことなど、図面には書かないが本当は大事な記述やスケッチをCADオブジェクトに付与できる。失敗学の考え方に沿っている。

## 私の提言

## グローバル化と国際化の狭間

武蔵工業大学 兼子 毅



昨年フィンランドでのワークショップに参与する機会を得た。国際競争力トップクラスのフィンランドと、30位前後に

低迷する日本との違いを探りに赴いたのである。自分なりに見つけた主要因は至極単純な話であった。日本はとてもハッピーな市場なのである。

日本には、ドル・ベースで世界一高給取りの人間が一億人以上住んでいる。若き起業家は、日本での成功を目指せば十分リッチになれる。彼らが世界に打って出るのは、日本で成功してからである。一方フィンランドは、人口わずか500万人余りに過ぎず、若

き起業家が成功を目指すなら、最初から欧州、あるいは世界レベルのビジネスを志向せざるを得ない。

日本語もフィンランド語も特殊な言語ではあるが、日本では外国から日本への流入を阻止する「障壁」となっているのに対し、フィンランドでは逆に自国から外国への流出を阻止する「障壁」となっている。だからこそフィンランドでは当たり前のように共通語としての英語を話すことができる。

辞書によれば、グローバル化とはある国の企業が協業のために他国の企業とリンクすることであり、国際化とは特定地域の問題が世界中の関心を集めることである。フィンランドでは、最初からグローバル化を目指し、自らのビジネスを国際化しようと試

みている。一方日本では、まず国内の足回りを固め、成功したらその成果を輸出しようと試みる。ベクトルの向きが最初から違うのだ。

品質管理の世界では、ここ何年も外国由来のキーワードが飛び交っている。それらを取り入れるだけなら、単に「現地化」しているだけである。日本的品質管理の「国際化」を目指そう。自分たちの良きものを、世界に発信していこう。その際には十分に「グローバル化」も視野に入れよう。異なる文化、民族、宗教、言語の人たちと「リンク」していくために、特殊なものも共有できるものとをきっちり見極めていこう。

昨年参加地域が拡大されているAQS（アジア品質シンポジウム）は、私たちが「グローバル化」「国際化」するためのいいチャンスを与えてくれる。外から眺めると、日本の良い点も悪い点も見えてくる。特殊性も共通性も見えてくる。私たちは今までずっと、海の向こうからやってきた「黒船」に揺り動かされてきた。今度は自ら海の外に立ち、日本を揺さぶろう。

第282回関西  
事業所見学会  
ルポノーリツ株式会社  
明石本社工場

さる3月20日(木)、第282回事業所見学会が兵庫県明石市のノーリツ(株)明石本社工場にて開催された。テーマは『顧客視点での品質向上の取り組み』。約20名の参加者を集めた見学会となった。

ノーリツでは長期計画として「全ての視点を顧客視点に立つ」を掲げられ、顧客視点での製品開発、生産活動を実践されている。生産活動については、ガス14種類と様々な排気方式を組み合わせた約1万種類にもわたる品種に対し、いかに顧客の要望に合わせた、希望通りの納期に納めるかを課題にあげられている。

今回は、ガス温水機器事業部、エレクトロニクス事業部等の製造ラインを見学させて頂いた。ガス温水機

器の生産方式は1個流しの混流生産(NRPS)であり、「売れ筋製品は在庫をもつ」「注文が少ない品種は在庫をもたない」を基本に生産されている。トヨタのカンバン方式を採用され、必要最小限の仕掛品、5Sの徹底、全数行う最終検査体制の整備、そして見学者へ気持ちの良いあいさつをされる各作業者のモラルの高さに感銘を受けた。

見学後の発表テーマ『顧客視点での品質向上の取り組み』では、設計品質/製造品質/部品品質/サービス品質の各々の品質向上について、発表して頂いた。特に、部品不良への再発防止策は3日以内に実施するアクションの迅速さは弊社も見習わなければならない。

質疑応答では、作業員・検査員への教育・訓練、作業免許証明書の仕組み、設備等の日常点検チェックシートを定着させる工夫等活発な討議が行われた。

今回勉強させて頂いた内容を大いに参考にし、弊社の仕組み改善に繋げていきたいと考えている。

山本 紀之(イトーキレビオ)

## 第287回本部 事業所見学会 ルポ

### パイオニア株式会社 川越事業所

2003年3月5日、40名の会員が「2002年度日本経営品質賞」を受賞したパイオニア(株)川越事業所を訪ね、「顧客満足向上活動の取り組み」についてご講演と見学会により、ご苦心と成果を学ばせていただいた。

同事業所は、'92 ISO9002を始めとして'95 ISO9001、'99 ISO14000および QS9000を、さらに'02自動車関連の国際規格 ISO9000/TS16949を認証取得し、品質マネジメントシステム面を強化するとともに、平行して「顧客満足」の視点から'96 CIプロジェクトを手始めに'98CS経営に取り組み、'01「日本経営品質賞」の受賞を宣言した。

ISO/QSの成果に加えてCS経営推進活動を開始し、経営方針から事業計画を含む一貫したマネジメントシステムの強化に挑戦し、2002年度の「日本経営品質賞」を受賞された。

「日本経営品質賞」は世界的な経営革新のデファクト・スタンダードと言われる米国「マルコム・ボルド

リッチ国家品質賞」を範として、'95に(財)社会経済生産性本部が創設したグローバルな経営革新プログラムである。

同社にとって今回の受賞は、CS経営推進活動の終わりではなく、絶え間ない競争力向上への「新たな始まり」であり、「卓越した業績を生み出す経営の仕組みを追求し続ける組織づくり」を今後の課題とされている。

見学案内をいただいたカーナビの製造課では、カンパニービジョン「パイオニア発、世界初の挑戦」に始まりカーナビ部方針「わかりやすい職場づくり」以下、課、係、班ごとに行動指針、実行計画、管理項目、管理基準、進行状況、メンバーのアイデアなどセル方式の組立・検査作業に徹底した目で見る管理が実施され、全員参加の活気溢れる職場に見事な受賞の成果を確認することができた。

またプリント基板製造課では地道な製品の品質向上、製造技術および検査技術のあくなき追求の姿を見学させていただいた。

あらためて今回の見学会にご尽力くださった関係者の皆様にあらためて感謝いたします。

水本正義 (ISOクリエイティブオフィス)

### 2003年4月の入会者紹介

2003年4月の資格審査において、下記のとおり正会員11名準会員7名の入会が承認されました。

(正会員11名) 平川 清太郎(日本科学技術連盟) 西村 紀志雄(アライドテレシス) 向井 利行(ヤンマー) 今井 猛(東レ) ダウ

コーニング・シリコーン) 栗原 隆史(十文字学園女子大学) 尾崎 恭一(星和電機) 滝沢 真幸(NTTデータ) 石田 博文(トーマツ環境品質研究所) 斎藤 淳(SQML) 水山 元(京都大学) 石塚 睦子(東京医科大学看護専門学校) (準会員7名) 金子 潤・田淵 聖

史(山梨大学) 蔡 志紅(東京工業大学) 大和田 学・金子 雅明・真鍋 裕司(早稲田大学) 候 妹(東京医科歯科大学)

正会員：3208名

準会員：94名

賛助会員：190社216口

公共会員：22口

#### 行事申込先

本部：166-0003

杉並区高円寺南1-2-1

(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

(社)日本品質管理学会

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部：460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

(財)日本規格協会 名古屋支部内

(社)日本品質管理学会 中部支部

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004

大阪市北区堂島浜2-1-25

(財)日本科学技術連盟 大阪事務内

(社)日本品質管理学会 関西支部

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

## 事務局からのお知らせ

## 「医療経営の総合的「質」研究会 報告書」頒布のお知らせ

この度、標題の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. **申込方法**：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申込みください。

**申込先**：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. **資料代**：1冊(A4判104頁)会員1,450円(税込み)非会員1,850円(税込み)  
送料(冊子小包)：1冊310円、2冊380円 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申込みと同時に下記宛お振込みください。

**振込み先**：(社)日本品質管理学会  
三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

## 「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、**報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティーレポート、レター、QCサロン**です。

投稿論文審査委員会

**定員**：30名(先着順・会員優先)

**参加費**：会 員2,500円 準会員1,500円  
非会員3,500円 学生一般2,000円

**申込方法**：会員種類・氏名・勤務先・連絡先住所・TEL・FAXをご記入の上、本部事務局宛にE-mailまたはFAXにてお申込ください。

## 行 事 案 内

## 第290回事業所見学会(中部)

**日 時**：2003年6月3日(火)13：30～15：30

**テーマ**：明日のモノづくりをリードする人づくり - 理論と実践を身につける『実学一体』による人材育成 -

**見学先**：(株)デンソー技研センター

**定員**：40名

**参加費**：会 員2,500円 準会員1,500円  
非会員4,000円 学生一般2,000円

**申込方法**：会員番号・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上、中部支部事務局宛にお申込みください

## 第91回シンポジウム(中部第22回)

**テーマ**：「日本のものづくり」における品質確保の原点復帰と今後の方向を探る

**日 時**：2003年7月10日(木)10：50～16：30

**場 所**：名古屋市中区役所地下ホール

**基調講演**：

日本のものづくり、品質確保の原点復帰と今後を考える(仮題)

太田 和宏氏

(デンソー特別顧問 豊田紡織相談役)

**事例講演(1)**：

ものづくりの面から品質確保の原点復帰と今後を考える

猪原 正守氏(大阪電気通信大学)

**事例講演(2)**：

人づくりの面から品質確保の原点復

帰と今後を考える

大滝 厚氏(明治大学)

**事例講演(3)**：

ものづくりの企業からものづくり、品質確保の現状と今後を考える

加藤 典孝氏(ソニーEMCS)

**定員**：200名(会員優先)

**参加費**：会 員5,000円 準会員2,500円  
非会員7,500円 学生一般3,500円

**申込方法**：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上、中部支部事務局までお申込み下さい。折返し、参加要領をお送りいたします。

申込締切：7月4日(金)到着分

## 第36回クオリティバブ(本部)

**テーマ**：顧客視点の店づくり

**ゲスト**：田村 弘一氏

(株)クイーンズ伊勢丹 取締役会長)

**日 時**：2003年7月17日(木)18：00～20：30

**場 所**：(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

**参加費**：会 員3,000円 非会員4,000円  
準会員・学生一般2,000円(含軽食)

詳細はホームページをご覧ください。

## 第291回事業所見学会(本部)

**テーマ**：総合的マネジメントシステムで質経営の実践

**見学先**：(株)コーセー狭山事業所

**日 時**：2003年7月29日(火)13：20～16：30

## 第92回シンポジウム(本部)

**テーマ**：ISOマネジメントシステムを取り巻く潮流：課題と展望

**日 時**：2003年8月1日(金)10：00～17：00

**場 所**：東京都江戸東京博物館1階ホール

**基調講演**：

マネジメントシステム規格と適合性評価の展望

吉村 宇一郎氏(経済産業省)

**発表(1)**：

環境マネジメントシステムの改正動向と組織への影響(仮題)

吉田 敬史氏(三菱電機)

**発表(2)**：

次世代のISO9000：クオリティマネジメントシステム；持続可能な成長の指針及び自己評価の指針(仮題)

飯塚 悦功氏(東京大学)

**発表(3)**：

「ISO10006：プロジェクトにおける品質マネジメント」改訂の要点について

中村 翰太郎氏(建材試験センター)

**発表(4)**：

品質/環境マネジメントシステム監査規格(ISO19011)適用の要点及びコンサルタント規格の開発

阿久津 進氏(日本規格協会)

**募集人数**：300名

**参加費**：会 員5,000円(締切後5,500円)  
準会員2,500円 学生一般3,500円

非会員7,000円(締切後7,500円)

ホームページから申込みできます。

申込締切：2003年7月25日(金)